

奈良和重教授略歴

昭和六年七月 東京都に生まれる

昭和二年三月 東京都立小山台高等学校卒業

昭和二年三月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業

昭和三年三月 慶應義塾大学法学研究科政治学専攻修士課程修了

昭和三年四月 慶應義塾大学法学部助手就任

昭和三年四月 慶應義塾大学法学部助手就任

昭和三年四月 慶應義塾大学法学部助教就任

昭和四年六月 昭和四年九月

ハーバード大学留学

昭和四七年四月 慶應義塾大学法学部教授就任

昭和五〇年三月 法学博士（慶應義塾大学第七五一号）を授与される

昭和五二年二月 『理性と反抗——反時代の批判論集』により慶應義塾賞を授与される

平成九年三月 慶應義塾を定年退職

奈良和重教授主要業績

一、著書

『理性と反抗——反時代的批判論集』

酒井書店 一九七四年

『イデオロギー批判のプロファイル——批判的合理主義からポストモダニズムまで』

(慶應義塾大学法学研究会叢書) 慶應義塾大学出版会 一九九四年

『政治思想史Ⅲ 研究主題の点描——マキアヴェリからヘーゲルへ』

(慶應義塾大学通信教育教材) 慶應義塾大学出版会 一九七八年

原田・内田・佐竹・堀江他編『現代政治学事典』(共著)

ブレーン出版 一九九一年

二、論文(法学研究)

『全体主義的独裁の一般的特徴について』

三一巻 三号 一九五八年

『ボルシェヴィズム研究における内容分析と精神分析の方法(一)』

——N・ライツの研究を中心として—— 三二巻 八号 一九五九年

『ボルシェヴィズム研究における内容分析と精神分析の方法(二)』

——N・ライツの研究を中心として—— 三二巻 九号 一九五九年

『歴史的予測と社会的実践の科学性について』

三三巻 二号 一九六〇年

『工業化過程におけるマルクス主義の動態』

三五巻 一号 一九六二年

「啓蒙的理性の伝統とその現代的復生——十八世紀フィロゾフの精神構造を中心として——」

「新しいラディカリズム、あるいはイデオロギーの復活？」

「アルベール・カミュの反抗の政治思想」

「反行動主義者も否、非政治理論家も否」

「ボパー対コンフォース——『開かれた社会』をめぐる友・敵関係」

「政治におけるヒューマニズムの問題——実存主義とマルクス主義を中心として——」

「ピーター・ゲイの『啓蒙の弁証法』について」

「カール・ポパーとブライアン・マギーとの思想的対話」

「〈反抗的人間〉の擁護のために——イデオロギーと暴力に対するカミュの立場——」

「レイモン・アロン小論——ひとりの反イデオロギー的イデオロギー——」

「現代民主主義における〈公共性〉の思想的問題」（寺島俊穂と共著）

「シモーヌ・ヴェーユの道、あるいは生きられた思想についての素描」

「カール・ポパーの『社会科学の倫理』」

「ミュトス、グノーシス、プロメテウス——E・トービッチュとL・ヴェセルのイデオロギー批判」

「レイモン・アロンにおける歴史Ⅱ政治哲学」

「レイモン・アロンにおける『イデオロギー批判』」

「イデオロギーとしての『力への意志』——ニーチェにおける『政治的なもの』の批判——」

三六卷 九号 一九六三年

四一巻 五号 一九六八年

四三巻 一号 一九七〇年

四三巻 一〇号 一九七〇年

四四巻 一〇号 一九七一年

四六巻 三号 一九七三年

四六巻 五号 一九七三年

四七巻 二号 一九七四年

四七巻 三号 一九七四年

四八巻 一号 一九八七年

四九巻 七号 一九七六年

五一巻 九号 一九七八年

六〇巻 一号 一九八七年

六〇巻 三号 一九八七年

六一巻 五号 一九八八年

六一巻 二二号 一九八八年

六二巻 五号 一九八九年

「イデオロギーとデカダンス——ジュリアン・フロイントの政治哲学——」

六二巻 一 号 一九八九年

「道化師の Alternative——レシェク・コロコフスキーとマルクス主義——」

六三巻 二 号 一九九〇年

「ニーチェの超——歴史主義批判のために」

六三巻 八 号 一九九〇年

「ダニエル・ベルと（ポスト）モダニズムの終焉」

六四巻 四 号 一九九一年

三、論文（法学研究以外）

「非西欧諸地域の政治研究序説 アメリカにおける研究状況を中心として」

（日本政治学会編『年報政治学 政治学の現代的課題』岩波書店一九六二所収）

四、翻訳書

J・N・シュクラール『ユートピア以後——政治思想の没落』

紀伊國屋書店 一九六七年

R・ベンディックス『イデオロギーの時代』（D・E・アプター編／慶應義塾大学地域研究グループ訳）

『イデオロギーと現代政治』慶應義塾大学出版会一九六八年所収

A・B・ウラム『未完の革命——工業化とマルクス主義の動態』

（慶應義塾大学法学研究会叢書）慶應義塾大学出版会 一九六八年

F・H・ウィルホイト Jr『ニヒリズムを越えて——アルベール・カミュの政治思想』

慶應義塾大学出版会 一九七〇年

D・ジェルミイノ『甦える政治理論——伝統的探究への照明』

未来社 一九七一年

T・L・ソーソン『バイオ・ポリティクス——生物・文化的進化の政治学』

勁草書房 一九七三年

クレスピニイ／マイノウグ編『現代の政治哲学者』（共訳）

南窓社 一九七七年

S・パウマン『立法者と解釈者——モダニティ・ポストモダニティ・知識人』（共訳）

昭和堂 一九九五年

F・フュレ他『二〇世紀を問う——革命と情念のエクリール』（共訳）

慶應義塾大学出版会 一九九六年

五、小論など

「アメリカとマルクス主義」

「知識人の貧困」

「研究余滴 ニューレフト」

「『開かれた社会』をめぐる論争」

「テキストの周辺 政治思想史Ⅲ」

『三色旗』 一六八号 一九六二年

『三色旗』 二六八号 一九七〇年

『三田評論』 七〇三号 一九七一年

『三色旗』 二九六号 一九七二年

『三色旗』 三六七号 一九七八年

六、資料

「全体主義をめぐる諸問題 (一) ——Totalitarianism, 1954, Harvard Univ. Press. における統合的研究——」

『法学研究』 三〇巻 七号 一九五七年

「全体主義をめぐる諸問題 (二) ——Totalitarianism, 1954, Harvard Univ. Press. における統合的研究——」

『法学研究』 三〇巻 八号 一九五七年

「共産主義者における行動様式の分析——Gabriel Almond, The Appeals of Communism を中心として」

『法学研究』 三二巻 三号 一九五九年

七、書評 (法学研究) 「数が多いので主要なものに限定した」

D・イーストン著『政治体系』

C・J・フリードリッヒ／Z・K・ブルツェツィンスキー著『全体主義的独裁と専制』

H・B・メイヨ著『デモクラシーとマルクス主義』

J・W・チャップマン著『ルソーは全体主義者か自由主義者か』

中村菊男著『現代政治の実態』

二九巻 一二号 一九五六年

三〇巻 一二号 一九五七年

三一巻 五号 一九五八年

三一巻 二一号 一九五八年

三二巻 一一号 一九五九年

- J・S・ルーセック編『現代の政治的イデオロギー』 三四巻 一 号 一九六一年
- E・フロム著『マルクスの人間概念』／R・C・タツカー著『カール・マルクスにおける哲学と神話』 三五巻 八 号 一九六二年
- H・S・ヒューズ著『意識と社会』 三六巻 一 号 一九六三年
- Z・K・ブルゼジンスキー著『ソヴェト政治におけるイデオロギーと権力』 三六巻 四 号 一九六三年
- D・A・ゾル著『理性と叛逆』 三六巻 一 号 一九六三年
- G・L・モース著『西ヨーロッパの文化』 三六巻 二 号 一九六三年
- L・I・ブレドヴォルド著『啓蒙主義のすばらしい新世界』 三七巻 五 号 一九六四年
- M・オークショット著『政治における合理主義その他論集』 三八巻 三 号 一九六五年
- H・S・カリエル著『権威を求めて』 三八巻 四 号 一九六五年
- C・フランケル著『デモクラシーの展望』／E・リード編『デモクラシーへの挑戦』 三八巻 五 号 一九六五年
- M・ヴァルツァー著『聖徒の革命』 四〇巻 八 号 一九六七年
- V・ジッタ著『ゲオルグ・ルカーチのマルクス主義』 四〇巻 一 号 一九六七年
- J・エリユール著『政治的イリュージョン』 四一巻 四 号 一九六八年
- P・ゲイ著『啓蒙主義・ひとつの解釈』 四一巻 一〇号 一九六八年
- B・T・ウイルキンズ著『パークの政治哲学の問題』／G・W・チャップマン著『エドモンド・パーク』 四一巻 一 号 一九六八年
- R・ウォルフ他著『純粹寛容批判』 四一巻 二 号 一九六八年
- T・モルナー著『サルトル——現代のイデオログ』 四二巻 八 号 一九六九年
- D・マツクルラン著『少壮ヘーゲル学派とカール・マルクス』 四二巻 一〇号 一九六九年
- R・C・タツカー著『マルクスの革命理念』 四三巻 五 号 一九七〇年

- D・ジェルミーン著『イデオロギーを越えて』 四三巻 七号 一九七〇年
- L・S・フォイヤール著『マルクスと知識人』 四三巻 八号 一九七〇年
- R・T・ホワイ特著『反哲学者たち』 四三巻 二一号 一九七〇年
- I・ハウ著『ニューレフトの彼方に』 四四巻 七号 一九七一年
- A・マッキンタイヤー著『ヘルベルト・マルクーゼ』 四四巻 八号 一九七一年
- R・T・ド・ジョージ著『新しいマルクス主義』 四四巻 二一号 一九七一年
- D・ハワード／K・E・クレア編『未知の次元』 四六巻 六号 一九七三年
- G・リヒトハイム著『ルカーチ』 四六巻 二一号 一九七三年
- 小林善彦著『ルソーとその時代』 四六巻 二一号 一九七三年
- J・スタロバンスキー著『J・J・ルソー…透明と障害』 四七巻 二一号 一九七四年
- F・E・マニユエル著『歴史からの自由および反時代的論文集』 四七巻 四号 一九七四年
- S・ストヤノヴィツチ著『理想と現実のあいだ』 四八巻 二一号 一九七五年
- 新堀通也著『ルソー再興』／小笠原弘親『初期ルソー政治思想』 五三巻 二一号 一九八〇年
- P・ゲイ著『ベルンシュタイン』／関嘉彦著『ベルンシュタインと修正主義』 五四巻 五号 一九八一年
- H・アレント著（寺島俊穂訳）『ラーヘル・ファルンハーゲン』 六〇巻 五号 一九八七年
- D・ケルナー著『ヘルベルト・マルクーゼとマルクス主義の危機』 六〇巻 六号 一九八七年
- R・コフーン著『レイモン・アロン』第一・二巻 六〇巻 一〇号 一九八七年
- E・バリリイェ著『レ・プティ・カマラード』 六一巻 七号 一九八八年
- P・オリイ監修『新しい政治思想史』 六一巻 九号 一九八八年

その他